

絆

K I Z U N A

2021 MAY

JAグループ青森 月刊広報誌 [893号]

5



JAバンク デビュー

感謝プレゼント!

セット
申し込みで

ポイントあげちゃうぞ!



初めてJAで
口座開設した方
限定

1,000円相当を プレゼント!

対象のお客さま

口座開設月の翌々月の月末時点までに、

下記の条件を満たし、WEBからご応募いただいたお客さま

例えば2021年5月に口座開設した方は、2021年7月末までがご応募期間となります。



+



JAカードのご入会

JAの口座を決済口座に指定のうえ、
お手元にJAカードが届いたお客さま

JAネットバンクのお申込み

JAネットバンクをお申込みされ、
利用登録完了画面が表示されたお客さま

ご応募はコチラ! <https://www.jabank.org/brand/specialgift2021/>



■応募に関するご注意

- ご応募の受付はWEBのみとなります。
- 過去にJAで口座を開設したことがなく、2021年4月以降に初めて口座を開設したお客さまに限りです。
- 三菱UFJニコス株式会社からお客さまのJAカードに250ポイント(1,000円相当)を付与します。(ポイント付与には、口座開設月の月末から5か月程度かかります)
- 一部のJAではお申込みいただけない場合があります。(詳しくはお近くのJAにお問合せください)
- 本特典は2021年4月限りのものであり、予告なく本特典の内容を変更または終了する場合があります。

（個人情報のお取扱いに関する留意事項）

- お客さまと取引のある農業協同組合は、当該農業協同組合が所在する都道府県の信用農業協同組合連合会、農林中央会連（農業協同組合を主幹「JAバンク会員」といいます。）に、お客さまの個人情報（氏名、住所、電話番号、口座番号等）を提供し、JAバンク会員は以下の目的のために当該個人情報を利用しています。
- 商品の買付対象者の確認および商品等の提供 ●訪問、電話、宣伝物・販促物の送付等による各種商品等のご案内 ●新商品・新サービス等の開発等のための市場調査・分析
- 「JAバンク会員」については、次のホームページからご確認ください。 <https://www.jabank.org/>
- JAバンク会員は個人情報について、安全管理措置を講じてうえで取扱いいたします。
- 農林中央会連は本農業協会連合会の一部を三菱UFJニコス株式会社および大日本印刷株式会社により委託します。

詳しくは、お近くのJA窓口にお問い合わせください。

 JAバンク

貸出強化にかかる中期戦略3年間の

J Aバンク青森の取組み

J Aバンク青森では、「J Aバンク青森中期戦略（2019～2021年度）」において、「組合員・利用者目線による事業対応の徹底」を最優先事項とし、目指すべき姿の一つとして「農業・地域に貢献する存在であり続ける」ことを掲げ、①農業者の所得増大・満足度向上や地域活性化への取組み、②融資・成長化支援を通じた地域内の金融仲介によって存在感を発揮することを目標に各種事業推進に取り組んでおります。

特に、融資・成長化支援を通じた地域内の金融仲介の実践にあたっては、農業者に対する農業資金、組合員・利用者に対する生活資金など、農業・地域の資金ニーズへの対応力強化を目的に、県内全J Aに融資推進担当者を配置して出向く体制を強化するとともに、当金庫支店においてもJ Aの訪問活動や資金対応等を支援するJ A貸出推進班を新たに設置し、J Aバンク青森が一体となって農家・組合員への戸別訪問や業者訪問を積極的に展開してまいりました。

加えて、農機具メーカーや農機具販売店を対象とした「J A農業資金説明会」やハウスメーカーを対象とした「J A住宅ローン説明会」を開催するとともに、各種団体が主催する農機具展示会等にJ Aバンク青森のブースを出展し、J Aの融資商品の理解促進やPR活動等を通じて業者との信頼関係やリレーション構築にも力を入れてまいりました。

2020年度は、新型コロナウイルス（以下、「新型コロナ」という。）感染拡大の影響で、農家・組合員や業者等への訪問が制限され、思うような活動はできませんでしたが、それまでの取組みや築き上げてきた関係性がうまく機能したこともあり、農業関係資金および住宅ローンの新規実行は、農業関係資金が目標未達となったものの、件数、金額とも前年度を上回る実績を確保することができました。

特に、住宅ローンは、ハウスメーカーからの紹介案件が増加傾向にあり、期末残高ベースで前年比11.0%の伸びとなりました。

また、新型コロナの影響を踏まえ、農畜産物の減収被害等に対応した災害緊急資金の取扱いを開始し、J Aグループ青森が実施する最大1.0%の利子助成に加えて、保証料助成を実施し借入者の負担軽減に取り組みました。

迎えた2021年度は、現行中期戦略の最終年度であり、次期中期戦略に繋がる重要な1年になります。

いまだ新型コロナの感染終息は見通せない状況下にあります。これまで築き上げたものを最大限に活用し、それらをさらにレベルアップさせていくとともに、新たな生活様式への対応を見据えた取組みにも果敢にチャレンジし、次期中期戦略に良い形でバトンを繋げてまいります。

J Aバンク青森

絆 5 目 次 CONTENTS

メッセージ	1	組織農政通信	14
フラッシュ	2	J Aつがる弘前NEWS	15
インフォメーション	4	輝き	16
東北農政局通信あおもり	10	自慢のグルメ	16
経営の窓口	11	みりよく発信	17
実践農業者支援	12		

フレッシュ

JA青森



金融移動店舗車よりぞう号

地元企業の協力で支店廃止地域へ初巡回（4／5）

JA青森信用部は、金融移動店舗車「よりぞう号」で、外ヶ浜町平館地区への巡回を始めた。支店統廃合が進んだことでJAに口座をもつ組合員や地域住民が利用しづらいという課題を解決し、利便性を高めることがねらい。運行は6月までの3ヵ月間を予定している。同JA信用部奈良岡寿広部長は「週に1回の運行ではあるが、気軽に利用してもらえれば」と話した。

JAごしょつがる



ご利用ありがとうございました

支店廃止地区に送迎車（4／5）

JAごしょつがるは、移動手段を持たない利用者の不便を解消する目的で、4月2日から送迎車の運行を始めた。3月26日で管内に5つあった支店のうち、3支店を廃止したため、送迎車を配備。七和地区の初運行に乗車した利用者は、「人が少なくなり、時代の流れもあるため支店の廃止は仕方ないと思う。送迎車は、普段通らない道を通ることや、利用者との会話の楽しみがあるので、また利用したい」と話した。

黒星病の耕種的防除を省力化（4／8）

青森県中南部地域県民局地域農林水産部は、弘前市黒滝にある田沢誠さんの園地にて、開発中の落葉収集機による省力的な落葉収集実演会を行い、32名の生産者や関係者が参加した。

実演では、(株)ORECの女性職員が収集機をけん引した乗用草刈機を操縦し、女性でも簡単に落葉の収集・排出が行えることを実証した。なお、作業能率は手作業で行うよりも約30倍も高い。

JAつがるにしきた



高品質生産へ 適期防除を（4／13）

JAつがるにしきたは、高品質アスパラガスの安定生産に向けて、管内2カ所で栽培講習会を開催した。

鱈ヶ沢町の対馬孝さんの圃場（ほじょう）で行われた講習会には生産者20人が参加し、西北地域県民局地域農林水産部の阿部眞也主幹が生育状況と病害虫防除について「3月中旬以降は一時降雪や降雨があったものの比較的温暖な気温で経過。生育は昨年より遅いが平年並みとなっている。病害虫防除の適期を逃さないように」と説明した。

JAつがる弘前



女性部の芸農活動 新たな女性部に向けて（4／9）

つがる弘前農協女性部は2020年度末時点で、6支部524人の部員が在籍している。同年度は新型コロナウイルスの影響で多くの事業を中止したが、感染予防対策に努めながら、農閑期となる冬場のサークル活動と若年層で組織するフレッシュ部会の講習会は予定通り開いた。4月9日にJA本店で開かれた20年度通常総会で成田縫子部長は「これからの2年間は、次世代への橋渡しのための勝負の年となると思うので、みんなで気持ちを一つにして進めていきたい」と思いを語った。

JA相馬村



JA津軽みらい



キャラバンで黒星病対策を呼び掛ける（4/12）

中南地域県民局は、JA津軽みらい平賀青果センターで、黒星病の撲滅キャラバン出発式を行った。佐藤佳克営農購買担当常務をはじめ、同JA職員や各市町村、関係団体ら40人が出席した。佐藤佳克常務は「昨年は降雨前散布と徹底した薬剤防除により、黒星病の発生を極力抑えることができた。今年も良い出来秋を迎えられるよう、生産者と一丸となり共に頑張ろう」と激励した。



JAゆうき青森

圃場ごとに肥料配合（4/13）

JAゆうき青森六ヶ所営農センターは、全農あおもりとくみあい肥料と共同で、六ヶ所村管内の野菜生産者へオーダーメイド肥料の供給を行っている。オーダーメイド肥料は、土壌診断の結果に基づいた施肥設計と生産者の要望を集約して作る。同事業を利用している石久保農産の石久保齊代表は「生産者の圃場ごとに合わせて作ってもらえるという利点がある。フレコン対応により肥料袋のごみも少なく、環境に配慮しているところにも好感が持てる」と期待を寄せた。

地域の安心・安全な生活を目指し協定結ぶ（3/24）

JA八戸と八戸市は、「八戸地域の安心・安全見守り協定」を締結した。2011年に新郷村と締結してから今回で2回目。山美喜正組合長は「コロナ禍によるコミュニケーション不足ではあるが、感染対策を行いながら、地域の方と交流しながら地域貢献の気持ちを持ち、取組んでいきたい」と話した。



JA十和田おいらせ

JA育苗の健苗配布 1万6千本供給（4/5）

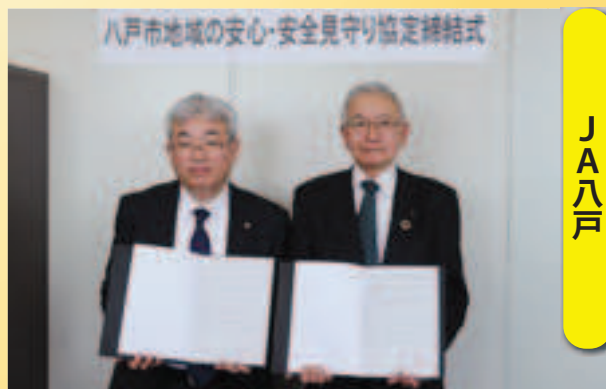
JA十和田おいらせでJA育苗のピーマン苗の配布が始まった。3月上旬に続き、2回目の配布で5月中旬にも行い、委託農家28戸へ計1万6千本を供給する。JA育苗により、生産農家の労力軽減につなげ、さらに健苗の供給で高品質生産を目指す。十和田市内の女性農家は「昨年は値段がよく収量もとれた。健苗でほっとしている」と話した。

JAおいらせ



労組主体で春のクリーン作戦（4/8）

JAおいらせ労働組合は、業務終了後にJA施設周辺のクリーン作戦を行った。労組員以外に部課長も加わり、本店で60人、六戸支店で30人が駐車場や施設周辺を清掃した。地域貢献活動の一環として春と秋の年2回清掃し、7年前から継続して取組んでいる。春は雪解け後のたまったゴミや風で飛んできたペットボトルなどが多く、職員が拾い集めた。



JA八戸

第68回通常総会 青森県農協青年部協議会

青森県農協青年部協議会（JA青森県青協）は4月9日、青森市内で2020年度通常総会を開き、役員およびJA青年部長など30人が出席した。20年度の活動報告や21年度の活動計画等について承認。JAつがる弘前青年部の成田啓輔さんを新たに委員長に選任した。

21年度は、生産基盤強化対策などの国内農業対策の確実な実施に向けた運動を展開する。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昨年度実施することができなかった青年大会の開催を目指していく。

成田新委員長は「農政活動の強化をめざし、ITを使った会議等を開き、盟友の声を拾っていく。コロナの収束が見えないが、できることを増やしていきたい」と決意を述べた。

また、副委員長も次の通り選任した。
▽平館龍徳（JA十和田おいらせ青年部）▽工藤恒太郎（JAつがるにしきた青年部）



▲新体制のメンバー



▲新委員長に就任した成田啓輔さん

21年度新採用職員研修

JA青森中央会は4月14日、県農協会館で2021年度JA新採用職員向けの研修会を開いた。JAの職員として、JA理念や組織を理解し、社会人としてのマナーや心構えなど必要な知識と役割の習得を促すことがねらい。

初日の研修では、JA職員には地域や組合員から必要とされる存在を目指すため、自己管理の徹底だけではなく、職員自身が働きがいを感じる場づくりのために、積極性・前向きな姿勢の重要性を強調した。

2日目はビジネスマナーに関する講義を行い、参加者はグループワークを中心に、お辞儀や敬語の使い方を学び、最終日は職場内の良好な人間関係の形成を目的として、「コミュニケーションの理論と実践」と題して講演を行った。

参加者は「JAが目指す理念のもと、相互尊重・配慮を大切に、当事者意識と責任を持った職員になりたい」と抱負を述べた。同研修会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3会場に分散して実施し、延べ100人ほどの職員が参加した。

実施は4月6～8日にJA十和田おいらせ本店、13～15日に青森市の県農協会館、20～22日にJAつがるにしきたつがる統括支店で開催場所を分けて開催した。



▲マナーについて説明する講師

第67回JA女性協通常総会

青森県JA女性組織協議会は4月20日、青森市の県農協会館で第67回通常総会を開いた。2021年度は、3カ年計画「JA女性 地域で輝け 50万

パワー☆」の実践最終年度として、これまでの活動の振り返りを含め、仲間づくりやＪＡ運営への参画に取組み、組織強化につなげる。

総会参加者は全員検温と手指消毒を実施。参加者の座席間にはアクリル板も設置するなど感染症対策を行い、女性部役員ら90人が参加した。

21年度は、ウィズコロナ時代に沿った感染症対策を講じ、できる範囲の活動を計画・実施していく。新時代を見据えたリーダーの育成、ＪＡ運営への積極的参加と意見反映、ＪＡと共に食農教育の理解促進や国連のＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）を意識した活動に取組むとした。

19、20年度に引き続き会長に就任した成田縫子さんは「今回の役員改選ではほとんどが入れ替わった。新役員と共に新しい風を吹かせていきたい」と意欲を述べた。

副会長は次のとおり。

▽松橋久美子（ＪＡつがるにしきた女性部）▽小川真利子（ＪＡ十和田おいらせ女性部）



▲決意を新たにする成田会長（左端）



▲成田会長（前列中央）と新体制のメンバー



行事（5／10～6／10）

5月

- 10日 定例理事会（県農協会館）
- 11～12日 初級職員研修会（教育研修所）
- 12日 県参協通常総会・定例会・研修会（弘前パークホテル）
- 13日 県女性協定例理事会（県農協会館）
- 14日 内部監査・リスク管理担当部課長・担当者会議（県農協会館）
- 19～20日 中堅職員研修会（教育研修所）
- 19日 県農協生活指導員連絡協議会通常総会・研修会（県農協会館）
- 21日 ＪＡ広報担当部課長・担当者合同会議、日本農業新聞通信員会議・研修会（教育研修所）
- 24日 臨時理事会（県農協会館）
- 27日 資産査定基礎研修会（教育研修所）

6月

- 3～4日 経営基盤強化（戦略的思考ワークショップ）研修会（県農協会館）
- 3日 次世代リーダー育成研修会オリエンテーション（教育研修所）
- 4日 第1回県下ＪＡ青年部長・事務局合同会議（教育研修所）
- 8日 県下組合長会議（県農協会館）
- 8日 定例理事会（県農協会館）
- 8日 青森県ＪＡ協議会通常総会（県農協会館）
- 9～10日 監督者研修会（教育研修所）
- 9日 県参協定例会（県農協会館）
- 10日 ＡＴＬＡＳ消費税研修会（教育研修所）

携帯各社の新料金プランも対象！ ご利用料金のお支払いはJAカードが おすすめ

JAカードでは、携帯電話料金のお支払い特典として、年会費無料やポイントプレゼントを実施している。

対象となる携帯電話会社は、au、NTTドコモ、ソフトバンク、ワイモバイルの4社。

2021年3月より開始した各社の新料金プラン（povo・ahamo・LINEMO）も本特典の対象になっており、各料金プランの専用サイトで手続きができる。

携帯電話料金お支払いにかかる特典は、以下のとおり。

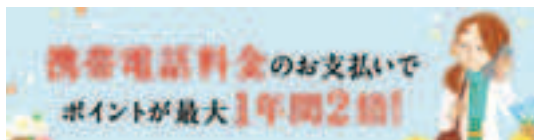
《 特典 ① 》



新たに携帯電話料金をお支払いいただくとJAカードポイントを200ポイント（800円相当）プレゼント。

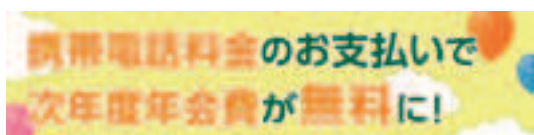
※ただし、ポイント加算は1回のみ

《 特典 ② 》



携帯電話利用料金のお支払いがあった請求月のわいわいポイントの基本ポイントが、最大1年間2倍。

《 特典 ③ 》



月額利用料金のお支払いで次年度年会費が無料

※ただし、ゴールドカードは対象外

詳しくは、お近くのJA窓口または三菱UFJニコスWEBサイト（<https://www.cr.mufg.jp>）まで。

認定試験の受験資格取得研修に 「eラーニング」を導入

JAバンク青森では、認定試験の受験資格取得等を目的に、これまで集合研修方式で開催してきた試験前研修をeラーニング方式に切り替えた。

eラーニングは、インターネットを利用した学習システムで、パソコンやスマートフォンを使って受講するもの。

受講申込みは、試験日の3か月前から可能で、申込み後は、試験日前日の24時まで、いつでも、何度でも受講できる。

模擬テストで自らの理解度を確認できるほか、理解不足や苦手な分野（箇所）を繰り返し学習することで、知識の定着化が期待できる。

対象となっている研修は、証券外務員試験に関連する「認定試験受験資格取得研修（第1種）」、「同（第2種）」、「内部管理責任者資格試験対策研修」の3種類。

試験日の日程およびeラーニング受講に関するお問い合わせは、農林中央金庫青森支店JA指導相談班まで。

行事（5/10～6/10）

農林中央金庫

5月

- 12・13日 国庫金振込事務研修（ウェブ会議）
- 17日 貸出事務手続研修（県農協会館）
- 20日 不正不祥事・内部管理体制向上研修（県農協会館）
- 21日 窓口ライフイベント研修（県農協会館）
- 24日 窓口対応研修（県農協会館）

6月

- 1～2日 信用事業マネジメント実務強化研修（県農協会館）
- 8日 青森県JA信用担当部課長会議（県農協会館）

農協電算センター

5月

- 10日 定時取締役会（県農協会館）
- 25～27日 窓口端末機操作研修（貸出金）・2回開催（県農協会館）

6月

- 3～8日 窓口端末機操作研修（貸出金）・3回開催（県農協会館）
- 8日 臨時取締役会（県農協会館）

「ご炊こうチャレンジ」動画を制作

J A全農あおもりは、「ご飯を炊くことを楽しんでもらいたい」というメッセージを込めた動画を制作し、Youtube で公開している。

動画には、三村申吾青森県知事とミス・クリーンライスあおもりの松宮杏乃さん・工藤七瑠さんが出演。青森米「青天の霹靂」「つがるロマン」「まっしぐら」をPRする他、炊き立てのご飯のお供を紹介している。動画は第1弾と2弾の2種類で、それぞれ違ったお供を楽しめる内容となっている。「ご炊こうあれ」というコメントは、「ご多幸あれ」の思いを込めたもの。

動画の制作にあたった全農あおもりの担当者は「動画を見て、ご飯を炊く人が増えてくれたら嬉しい。炊き立ての美味しい県産米を食べて元気になって欲しい」と話す。

動画は、J A全農が考案した「ご炊こうチャレンジ」企画に賛同し制作したもの。

▽第1弾



動画はこちら



▽第2弾



動画はこちら



青森県りんご共同防除連絡協議会・共済会 第66回総代会

青森県りんご共同防除連絡協議会・共済会は4月7日、青森市の県農協会館で第66回総代会を開き、令和3年度計画を承認した。昨年、農薬散布中の事故が多発したことを受け「スピードスプレーや等傷害事故防止運動の推進強化」を最重点事項とし取り組むこととした。また、「黒星病防除推進強化運動」や「若手オペレーターの育成な

ごによる組織の強化」についても重点事項に位置づけ、地区共防連との密接な連携のもと、取り組みを進めることとした。

柴谷誓孝副会長は、2年産の生産状況について「結実状況は概ね標準着果量を確保し、肥大も良好となった。降雨前の農薬散布の徹底により元年産で多発した黒星病が抑えられた」と振り返った。また「今年度は事故防止強化月間を設ける。組織一体となり事故防止に努めていきたい」と協力を求めた。

共防組合活動の発展に貢献した4人に共防功労賞を贈呈した。受賞者は次の通り。かっこ内は地区連名

▽共防功労賞

【個人】阿部 正弘（津軽みらい農協みなみ）
尾崎 啓一（つがるにしきた鶴翔）
成田 勝秀（ごしょつがる農協）
畑中 茂喜（三戸）



▲表彰を受ける成田さん

りんご病害虫効率的防除研修会

青森県りんご共同防除連絡協議会は4月13日、令和3年産りんごの効率的な病害虫防除に向けた研修会を、田舎館村文化会館で開いた。津軽地区のりんご共同防除組合員とJ A担当者らが参加し、今年産の病害虫防除のポイントなどについて学んだ。

青森県産業技術センターりんご研究所病虫部の赤平知也研究管理員が、今年発生が懸念される①腐らん病②黒星病③うどんこ病一などの防除方法を説明。参加者は、腐らん病に対する防除について「6月中旬にラビライト、7月半ばから末にか

けてトップジンMまたはベンレートを、タイミングよく散布することが重要」などとポイントを学んだ。他にも、昨年の発生状況や病害虫防除暦の変更点についても学び、知識を深めた。

県共防連の葛西範正会長は「本年はりんごの生状態が平年より早まっている。今回の研修内容を踏まえながら適期防除に万全を期し、高品質なりんごの生産に努めて欲しい」と呼びかけた。

14日には南部町のふれあい交流プラザで、県南地区研修会を開いた。



▲防除のポイントについて学ぶ

スピードスプレーヤ事故防止運動キックオフ大会

青森県りんご共同防除連絡協議会は4月13日、田舎館村文化会館で「スピードスプレーヤ事故防止運動キックオフ大会」を開き、津軽地区のりんご共同防除組合員とJA担当者らが出席した。昨年の事故発生事例や作業中の注意点などを学んだうえで、出席者全員で「気を付けよう三唱」を行い、安全に対する意識の向上を図った。

出席者は「慣れたときこそ要注意」「作業は必ず2名以上で」「携帯電話を持ち歩く」「路面の状態を確認する」など、注意点を学んだ。

キックオフ大会は、今年度からの取り組み。近年、スピードスプレーヤによる作業中の事故が目立つことや、昨年2件の死亡事故が発生したことを受け、事故防止の徹底を呼びかけるために開いたもの。

また、新たな取り組みとして、事故の発生が多い春（4～5月）と夏（7～8月）を「事故防止強化月間」に位置づけ、更なる徹底を呼びかける。黄色に赤字でデザインした目立つ仕様の啓発のぼりを配布し、園地や格納庫など目に留まる場所に掲示するほか、事故防止対策資料の配布や、安全作業研修会の開催などに取り組む。

県共防連の葛西範正会長は「事故防止に対する意識を高め、今年は傷害事故ゼロを目指したい」と協力を求めた。

14日には南部町のふれあい交流プラザで、県南地区キックオフ大会を開いた。



▲出席者全員で行った「気を付けよう三唱」



▲啓発のぼりの贈呈



Twitter 公式アカウントを
開設しました。

農業を通して、みなさんに
楽しんでいただきたい！そんな
想いが詰まった情報をお届け
します。

https://twitter.com/jazennoh_aomori



行事（5／10～6／10）

5月

- | | |
|-----|------------------------------|
| 10日 | 運営委員会（県農協会館） |
| 21日 | 青森県JA—SS運営協議会第52回通常総会（県農協会館） |

6月

- | | |
|----|--------------|
| 8日 | 運営委員会（県農協会館） |
|----|--------------|

共済基礎知識研修会 基礎知識コースの開催

J A 共済連青森は4月5日～7日、青森市の青森県トラック協会大研修室において、新任 L A (ライフアドバイザー)・共済担当者・スマイルサポーターを対象とした共済基礎知識研修会(基礎知識コース)を開催し、各 J A から72名が参加した。

同研修会では「共済事業に関する基礎的知識」「ひと・いえ・くるまの仕組みのポイント」等の研修を受講した後、知識の習得を目的に理解度確認テストを行った。

出席者は今年度の共済推進に向けて意欲的に研修に取り組んでいた。



▲熱心に研修を受ける参加者

交通安全ラッピングバス運行式の開催

J A 共済連青森は、交通事故未然防止活動の一環として、地域住民の交通安全思想の啓蒙を図ることを目的に、4月6日弘前市弘南バス弘前営業所にて令和3年度交通安全スローガンをテーマに掲げデザインした J A 共済ラッピングバスの運行式を行った。今回、ラッピングしたバス3台を活用し、「スマホより集中するのは前の道」・「ゆとりある心と車間のディスタンス」・「免許証返す勇気が生むゆとり」・「交差点青でも左右確認を」・「イヤホンを外してきいて町の音」・「じてんしゃといつともだちへるめっと」・「まあだだよベルトみんながしめるまで」・「手をあげてじぶんでまもろういのちのあいず」・「どこいくの連れていってねヘルメット」の交通安全のスローガンをカラフルなイラストを車体側面にラッピングして、歩行者の歩きスマホと危険運転の根絶を訴え、令和4年3月まで交通事故防止を呼びかける。

運行式で、J A 共済連青森福士本部長は「地方の方々の交通安全に対する意識向上と交通事故の未然防止に貢献したい」とあいさつした。

運行の無事を祈って県警、県交通安全協会、弘前交通安全協会、弘南バス(株)、農協関係者らと共にテープカットが行われた。



▲運行式のテープカットを行う関係者

自転車交通安全教室の開催

J A 共済連青森は青森県警察本部と連携して、4月8日青森市立浪岡中学校、14日に三戸町立三戸中学校、27日においらせ町立百石中学校で「生徒向け自転車交通安全教室」を開催した。

この教室では、スタントマンが交通ルールやマナー違反が交通事故を招く危険性があることを考えさせ、自転車交通ルールの理解と実践を呼びかけており、参加した生徒たちは、スタントマンによる交通事故場面の再現で、自転車運転中やトラックの内輪差での巻き込み事故を目の当たりにして、事故の恐ろしさを確認していた。

4月8日の青森市立浪岡中学校で実施した同教室の最後に生徒の代表は、「交通事故の恐ろしさを実感し、今後は今まで以上に交通ルールを守る意識を高めたい」と言葉を述べ、交通安全への意識を新たにしていた。

なお、同教室は7月19日に、むつ市立田名部中学校においても開催する予定である。



▲感想を述べる生徒代表(青森市立浪岡中学校)

文化支援活動クリアファイル寄贈の実施

J A 共済連青森は4月9日、青森県庁にて文化支援活動および交通事故未然防止活動の一環として、県教育委員会を通して J A 共済連青森主催の書道・交通安全ポスターコンクールの令和2年度最優秀作品をプリントしたクリアファイルを県内各小・中・特別支援学校に寄贈した。

この活動は、平成27年度から行っており、今年度は95,000部を寄贈した。

寄贈式では、J A 共済連青森福士本部長から、青森県教育庁学校教育課高橋課長へ「ひとりでも多くの児童・生徒へ、文化支援活動として小・中学生の書写教育と交通安全思想を広めるために、日常的に使用してほしい」と手渡された。



▲県教育委員会へ寄贈を行った福士本部長

行事(5/10～6/10)

5月

10日

運営委員会(県農協会館)、labet's 活用促進研修会(県農協会館)

11日

共済事業担当常勤理事会議(県農協会館)
収納・共済資金管理事務基礎研修会(県農協会館)

12日

J-SMILE 研修会／「窓口の基本」編(県農協会館)

13日

共済担当管理者研修会(県農協会館)

14日

共済担当部課長会議(ホテル青森)

18～19日

共済事務インストラクター養成研修会(県農協会館)

25日

共済代理店新任担当者研修会(県農協会館)

26～28日

安心サポーター基礎研修会(県農協会館)

6月

1～2日

J-SMILE 研修会／「自動車」編(県農協会館)

3日

共済代理店担当者研修会(県農協会館)

7～8日

J-SMILE 研修会／「長期」編(県農協会館)

8日

運営委員会(県農協会館)

9～10日

共済事務処理担当者研修会(県農協会館)

品種の持つ力を活かす！～令和3年4月種苗法の一部が改正されました～

近年、我が国の優良品種が海外に流出し他国で産地化される等、我が国の農林水産業の発展に支障が生じています。今後、このような事態の発生を防ぎ、農業者の皆様が、優良な品種を持続的に利用できるように、種苗法が改正されました。

この改正のポイントについて留意点をお知らせします。

登録品種の表示等の義務化について

●登録品種（表示が必要）

①登録品種であることの義務表示

「登録品種」の文字や「品種登録」の文字及び品種登録の番号、省令に定める標章（PVPマーク（PVP））

②輸出制限、国内栽培地域の制限の義務表示（育成者権者が利用条件を付した場合）

海外持出禁止及び△△内のみ栽培可
（公示（農水省HP）参照）

③義務表示の方法

必要事項を種苗又は種苗の袋、缶等に直接表示する。種苗の譲渡時だけでなく、店頭販売時、カタログやインターネット販売時にも表示が必要。

一般品種（注）は「登録品種である旨」「輸出制限、国内栽培地域の制限」の表示義務はありませんが、指定種苗制度上の表示義務が課されるものがあります。

（注）：一般品種とは、①在来種、②品種登録されたことがない品種、③品種登録期間が切れた品種のこと。

登録品種の増殖は許諾が必要です

令和4年4月1日から農業者が登録品種の収獲物の一部を自己の農業経営で種苗として使うこと（自家増殖）にも、育成者権者の許諾が必要になります。

増殖の許諾については、その品種の利用権利を持つ育成者権者が決めることとなりますので個別に育成者権者にお尋ねいただくこととなります。

また、育成者権者が認めていれば、団体を通じた簡易な許諾手続きも可能となります。

農林水産省では、公的機関の許諾料設定に係る考え方についてガイドラインを示すと共に、育成者権者に対して早期に許諾の方針を示すように呼びかけてまいります。

※農林水産省のホームページでは、種苗法の改正の背景、改正の内容などを掲載しています。



【農林水産省HP】

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/shubyoho.html>

青森県で主に栽培されている品種

品目	一般品種		登録品種		
稲	つがるロマン 華吹雪	あきたこまち アネコモチ	まっしぐら ほっかりん うしゆたか	青天の霹靂 華想い みなゆたか	あさゆき 吟烏帽子（出願中） えみゆたか
小麦	キタカミコムギ	ナンブコムギ	ネバリゴシ	ゆきちから	もち姫
大豆	オクシロメ		おおすず	シュウリュウ	
ニンニク	福地ホワイト		白玉王		
ヤマノイモ	トロフィー 1066		ネバリスター	つくなが 1 号	あおもり短八
イチゴ	とちおとめ	さちのか	紅ほっぺ	すずあかね	
りんご	ふじ つがる	ひろさきふじ 王林	あおり15（星の金貨） 紅はつみ	あおり16（恋空） シナノゴールド	あおり24（はつ恋ぐりん） あいかの香り
ぶどう	スチューベン		シャインマスカット	サニールージュ	

※品種の最新の登録状況は農林水産省品種登録データ検索システムから検索できます。
（<http://www.hinshu2.maff.go.jp/vips/cmm/apCMM110.aspx?MOSS=1>）

経営の窓口

「職場のメンタルヘルスケアについて」

1. はじめに

厚生労働省が策定する「第13次労働災害防止計画」において実施すべき主な取り組みの一つとして、職場におけるメンタルヘルス対策の推進が挙げられている。

近年、経済・産業構造の変化、新型コロナウイルスの感染拡大による職場や生活環境の変化または家庭環境との複合的な要因により、仕事や職業生活に関する強い不安、悩み、ストレスを感じている職員の割合が高くなっている。

職員がメンタルヘルス不調となると、本人の健康問題だけでなく、労働生産性の低下や事故にもつながりかねないことから、メンタルヘルス不調の早期発見・対応が求められる。なかでも、「管理監督者（以下、ラインとする）によるケア」の役割は重要であることから、今回は、ラインを中心とした職場のメンタルヘルスケアについて紹介する。

2. 職場におけるメンタルヘルスケア

（1）メンタルヘルス不調者の発見と対応

ラインによるケアで大切なのは、「いつもと違う」部下に気づき、対応することにより、メンタルヘルス不調の早期発見・早期対応をすることである。

「いつもと違う」部下の様子（例）

- 遅刻、早退、欠勤が増える
- 休みの連絡がない（無断欠勤がある）
- 残業、休日出勤が業務に不釣り合いに増える
- 仕事の能率や思考力・判断力の低下
- 業務の結果がなかなかでてこない
- 報告や相談、職場での会話がなくなる（あるいはその逆）
- 表情に活気がなく、動作にも元気がない（あるいはその逆）
- 不自然な言動、ミスや事故が目立つ
- 服装が乱れたり、衣服が不潔であったりする

「いつもと違う」部下に対しては、その背後に病気が隠れている可能性もあるため、まずはラインが部下の話を聴き、産業医のところへ行かせる、あるいはライン自身が産業医のところへ相談に行く仕組みを作っておくことが必要である。

また、日常的に部下からの自発的な相談に対応できるよう、部下がラインに相談しやすい環境や雰囲気を整えるとともに、①長時間労働等により過労状態にある部下、②強度の心理的負荷を伴う出来事を経験した部下、③特に個別の配慮が必要と思われる部下に対しては、ラインが部下の話を積極的に聴く（積極的傾聴）ことで、職場の人間関係や部下のものの見方や考え方、行動様式および資質を理解することが求められる。

（2）メンタルヘルス不調の部下の職場復帰への支援

メンタルヘルス不調による休業から復職する職員は、「職場では自分はどう思われているのか」「職場にうまく適応できるだろうか」など、様々な心配をしながら出勤している。ラインが復職者の気持ちを受け止め、「上司は自分をわかってくれている」と感じることができれば、復職者の職場での緊張は大幅に軽減される。また、ラインと復職者が良好な関係を築けることは、すべての職員が安心して働ける環境をもたらすことから、メンタルヘルスに対する職場風土の理解醸成が求められる。

3. 最後に

職場における適度なストレスは仕事の能率を上げるが、度を越したストレスは心身にダメージを与えてしまう。ラインが職場環境を整える一方で、職員一人一人が自分に過剰なストレスがかかっていないか早く気付くこと、そして自分に合うストレス対処法を見つけて実践することも重要である。下記には、ストレス対処法の一つであるリラクゼーション方法を掲載するので参考にされたい。（引用：厚生労働省「selfcare こころの健康気づきのヒント集」）

また、本会では職場におけるメンタルヘルスケアやJ Aでメンタルヘルス不調者が出た場合の休職・復職の手続きなど、随時情報提供を行っていくので、相談等がある場合は、本会経営企画課まで連絡されたい。

（中央会 経営対策部）



実践 農業者支援

令和3年度の農業者支援事業による取組み

J A 青森四連では、「農業者の所得増大」、「農業振興に関する課題解決」に向け、J A が主体となって取組む農業者支援について連携し、支援している。

令和3年度に取組む農業者支援事業の主な項目を紹介する。

1. 担い手の育成・確保と労働力支援による強固な農業生産基盤の構築

(1) 新規就農者、農業経営承継による後継者確保への取組み

【目標】

新規就農者支援パッケージ等の確立と県全体での新規就農者の年間300名以上の確保

【実施内容】

- ① 新規就農者について、「県版新規就農者支援パッケージ」を参考に、各J A の状況に応じた「J A 版新規就農者支援パッケージ」の策定を働きかけるとともに、当該パッケージに基づき「募集、研修、就農、定着」に関する支援手続き等、実践の取組みを支援する。
- ② 「第三者への経営承継にかかるモデル実証」の内容を踏まえ、受入協議会の設立手続きや経営承継者のリストアップ、また、新規就農希望者への研修体系等の農業経営承継にかかる体制構築・実践の取組みを支援する。

(2) 多様な農業形態に対応する農業労働力確保に向けた取組み

【目標】

農家組合員が求める働き手の確保と効率的なマッチング手法の確立

【実施内容】

- ① 「青森県J A 農業労働力支援センター」に

おいて、働き手確保のために、「青森県農業労働力求人マッチングサイト」の活用推進や様々な媒体を使った求職者募集を企画する。

- ② J A における「マッチング率向上対策」に関する情報交換や新たな取組みを検討するため、J A の実務担当者を構成員とした「農業労働力確保対策作業部会」を継続して開催する。
- ③ チラシ等広報資材の作成により、農業者に対する雇用意識変革の啓蒙活動を継続するとともに、J A における労災推進について支援する。
- ④ パートナー協定を締結した人材派遣会社と連携し、働き手の迅速な派遣や監理団体と連携した外国人材の有効活用を進める。
- ⑤ J A が行う無料職業紹介事業のマッチング率向上等を図るため、J A の准組合員、年金友の会会員等を「農業応援隊」として活用する等、求職登録者増加対策について、J A とともに取組む。
- ⑥ 援農ボランティア活動の拡充等により、農繁期の補助労働力確保、農業者の雇用意識変革に向け取組む。

2. 農業者の所得増大と農業生産拡大への取組み

(1) 消費者との信頼を築く食の安全確保への取組み

【目標】

G H 農場評価制度を活用したG A P の実践とH A C C P に基づく衛生管理実践による食の安全確保の取組み

【実施内容】

- ① G A P の実践については、G H 農場評価員の育成および評価農場数を増加させる等によ

り進める。

- ② 第三者認証GAPの取得については、希望するJAに対し、全中による経費助成事業等を有効に活用しながら進める。
- ③ HACCP実施に向けた体制整備については、分野別知識習得研修会を開催するとともに、現地アドバイスを必要とするJAに対しては、専門家を派遣する等により法令へ対応する。

(2) JA農畜産物直売所を起点とした生産拡大・所得増大の取組み

【目標】

生産拡大・所得増大に向けたJA農畜産物直売所でのニーズ把握等とJAへの還元

【実施内容】

- ① JA農畜産物直売所キャンペーン等を実施し、消費者ニーズの把握による売筋商品や店舗業務にかかる要望の紹介、また、農畜産物加工等による付加価値向上の取組みを支援する。

3. 農業者の経営課題に対応した総合的な支援

(1) 営農指導員の育成

【目標】

多様化する組合員の要望に即応し、組合員からより信頼される営農指導員の育成

【実施内容】

- ① 各JAにおける「営農指導事業機能・体制強化方針」策定および同方針に基づく営農指導員育成計画等の策定について支援する。
- ② 高度専門的な人材を育成するため、営農指導員の階層（初級、中級、上級）や上位階層へのステップアップの基準を明確にした「階層別営農指導員の育成体系」を周知するとともに、育成体系に基づく研修会を開催する。
- ③ 若手営農指導員を育成するため、県の普及指導員と合同で実施する座学と実習研修を中心に、篤農家への実習等、中・長期の研修計画を企画・実施する。
- ④ 営農指導員としてのキャリア形成に必要な期間は、営農指導業務に従事できるような人事ローテーションや資格に応じた手当への反

映等について、各JAに働きかける。

- ⑤ 「階層別営農指導員の育成体系」に基づき、営農指導員の上位階層として、農家に対する経営改善提案等の農業経営指導を行う農業経営指導員（JA農業経営コンサルタント）を育成するため、本会主催で研修会を開催するとともに、全中主催の研修受講を働きかける。

(2) トータル生産コスト低減に向けた取組み 【目標】

トータル生産コスト低減に向けた適正施肥や低コスト資材の普及拡大、新たな振興品目の選定等による所得増大に向け取組む。

【実施内容】

- ① JA毎の農家手取り最大化実践メニューの策定充実を支援するとともに、取組み成果を共有し、JA間の横展開を図る。

(3) 農業者が実施する設備投資の資金対応 【目標】

農業者の規模拡大、生産コスト低減の取組み、法人化・大規模経営化などにとまなう農業者等の多種多様なニーズに対し、投融資業務（日本政策金融公庫受託貸付金を含む）を通じた資金面におけるきめ細やかなサポートにより、農業所得の増大を後押しする。

【実施内容】

- ① JAが行う投融資業務の円滑な取組みを支援するとともに、農林中央金庫としてもJAと一体となって投融資業務に取組む。

(4) 農業リスク分野の保障提供の強化 【目標】

農業者・農業法人等のニーズに応じた万全な保障の提供

【実施内容】

- ① 農業リスク診断活動を通じ、農業者・農業法人等のニーズに応じた万全な保障を提供していくため、農業リスク分野の保障提供の強化に取組む。

(中央会 農業対策部)

組織農政通信

「みどりの食料システム戦略」中間とりまとめ

菅総理大臣脱炭素社会の実現を宣言

菅総理大臣は昨年10月26日、国会での所信表明演説で、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする脱炭素社会の実現を目指すことを宣言した。

「みどりの食料システム戦略」中間とりまとめの決定

野上農林水産大臣は昨年10月16日の記者会見において、温暖化による気候変動・大規模自然災害の増加、生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退、コロナを契機とした生産・消費の変化などの課題解決に向け、農林水産業や加工流通を含めた持続可能な食料供給システムの構築が急務とし、わが国の食料・農林水産業の生産性向上と持続性の両立を技術革新で実現させるための新たな戦略「みどりの食料システム戦略」を令和3年3月に中間とりまとめを行い、5月の最終版策定を目指して検討すると発表した。

農林水産省は1月8日から3月17日まで、生産者、農業法人協会、JA全中、JA全農など関係者へのヒアリングを順次実施し、3月29日、2050年までに①農林水産業のCO₂排出を実質ゼロ化②化学農薬の使用量を半減③化学肥料の使用量を3割減④有機農業を全農地の25%(100万ha)に拡大するなどの数値目標を明記した「みどりの食料システム戦略」の中間とりまとめを決定した。

<みどりの食料システム戦略が目指す数値目標>

温室効果ガス	2050年に農林水産業のCO ₂ ゼロエミッション化の実現を目指す。
化学農薬	2050年までに、化学農薬使用量の50%低減を目指す。
化学肥料	2050年までに、化学肥料の使用量の30%低減を目指す。
有機農業	2050年までに、耕地面積に占める有機農業の取組面積の25%(100万ha)までの拡大を目指す。
園芸施設	2050年までに化石燃料を使用しない施設への完全移行を目指す。

ゼロエミッションとは、国連大学が1994年に提唱した排出ゼロ構想で、リサイクルを徹底することにより、最終的に廃棄物をゼロにしようとする考え方。

<1月14日開催の第2回みどりの食料システム戦略に係る意見交換会でのJA全中の意見(抜粋)>

- 農業の持続可能性を高めるためには、農業者が十分な所得を確保できる持続可能な経営が重要。
- 生産者に加え、消費者も環境に対する意識の転換が重要。国民運動の一環として展開していくことが必要。
- 人手不足が深刻ななか、省力化や低コスト化などの具体的な取組モデルの提示が必要。
- 具体的な数値目標は必要。地域・品目にあった目標等の設定や、技術革新とあわせた具体的な道筋の提示など、現場が納得して取り組めることが重要。
- 多面的機能の発揮・環境保全等の観点から、農地・水田農業を維持していくことも政策のグリーン化で具体化することが必要。

各国の環境政策

各国・地域が、食と生物多様性に関わる戦略を策定し、EU等では具体的な数値目標を提示。米国のバイデン政権も、農業での温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることを宣言している。

EU

「ファーム to フォーク」(農場から食卓まで)戦略 (2020年5月)
欧州委員会は、欧州の持続可能な食料システムへの包括的なアプローチを示した戦略を公表。

- 2030年を目標年に数値目標を設定
 - ・ 農薬の使用及びリスクの50%削減
 - ・ 一人当たり食品廃棄物を50%削減
 - ・ 肥料の使用を少なくとも20%削減
 - ・ 有機農業に利用される農地を少なくとも25%に到達 等

実効性ある戦略を

農林水産省は、5月の最終版策定に向けてパブリックコメントを実施するほか、引き続き関係者へのヒアリング等を行うことにしている。3月26日の日本農業新聞の論説にも記載されているが、農業者が積極的に取り組めるよう、生産現場を基点とした具体策の提示、併せて、消費者の理解も欠かせない。一部で農政の重要事項を短期間でまとめ上げたとの批判もあるが、実効性のある戦略を望む。

(中央会 農業対策部)

船沢小お米教室

J A つがる弘前船沢支店は1月21日、弘前市立船沢小学校で5年生19人を対象に初めて「お米教室」を開いた。

この取組みは、2020年3月に開催した支店運営委員会で、地域の農業人口減少が課題として挙げられたことを受け、まずは将来の担い手である子どもたちに農業へ関心を持ってもらおうと、船沢支店が同小学校に提案して実現した。



授業では、同J A直販課米穀係の職員が講師となり、米ができるまでの様子や、米が出荷されるまでの過程をスライドショーで説明した。

児童の一人は「私たちの食卓に届くまでに、頑張ってくれている人がいることを知った」「新型コロナウイルスの影響で米が余っていることを知ったので、お代わりしていっぱい食べたい」などと感想を話した。



船沢支店の三浦隆人支店長は「少しでも農業に興味を持ってもらい、将来農家になりたいと思えるきっかけになればうれしい。今後もこの取組みを継続したい」と意欲を見せた。

同小学校では今回のお米教室以外に、バケツで稲を育てる「バケツ稲」にも取組み、5月の植え付けから10月の収穫・脱穀までの講師を、同J A弘前西地区営農係の職員が務め、子どもたちにお米づくりの大変さを伝えた。

農業後継者研修

J A つがる弘前では2009年度から、農業に従事して概ね3年以内の新規就農者を対象に、持続的に農業を行う上で必要な知識と技術を習得してもらうとともに、地域農業の発展を目指すことを目的に、2年間のカリキュラムで研修会を開いている。

2019年4月からは第6期目をむかえ、22人の研修生を対象に2021年3月までの期間内概ね毎月1回、営農に関するその他、J Aが果たす役割や農業経営など多岐に渡る内容について、同J A指導部の職員や外部講師が、座学や実技によって講習を行った。2020年度は新型コロナウイルスの影響から、計画していた講習会を実施できない月もあったが、3月24日には、本店3階ホールで閉講式を開き、第6期生が2年間の研修を修了した。

工藤文明組合長は「この研修で知り合った仲間との縁を大事にし、これからもお互いに励まし合い、情報交換しながら農業に励んでほしい」と激励した。

研修生らは「農作業における疑問点が、研修を受講することで解決できた」「同じ志の仲間ができてうれしい」等と感想を話した。

2021年4月から新たに19人の研修生を対象に「第7期農業後継者研修」が始まり、4月28日に開講式を開いた。





J A 共済連青森
事業企画部 地域貢献G
たてだ たくま
館田 卓磨 さん

輝き

●プロフィール

2021年4月から勤務 青森市出身 22歳

— 働くきっかけは？ —

大きく分けて二つあります。一つ目は生まれ育った青森県の農業に興味があったことです。二つ目は多くの人の人生を支え、幸せにする仕事がしたかったからです。「ひと・いえ・くるま」のトータルでサポートし、相互扶助の精神で働くことができる本会は、多くの人の人生を支えることができ、多くの人の幸せにつながると思い入会を決意しました。

— 業務内容を教えて下さい。 —

県本部における広報に関する業務と、イベントの企画、運営に携わっています。

— 働いた感想は？ —

まだまだ入口ではありますが、とてもやりがいのある仕事だと感じています。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

絶対に同じ質問をしないことです。

— 特技・趣味は？ —

最近あまりできていませんが筋トレと料理を作ることが好きです。

— あなたが自慢できることは？ —

フットワークの軽さです。仕事もプライベートも呼ばれたらすぐ行きます！

— 将来の夢は？ —

今は泥臭く仕事を頑張りたいです！将来は背中で語れる男になるのが目標です。

希少なA5ランク牛が味わえる贅沢ラーメン



あらま味噌ラーメン

飼育頭数が非常に少ない今別町のブランド牛「いまべつ牛」は、道の駅いまべつ半島ぐらざアスクルのレストラン驛でしか食べられない。希少なA5ランクのいまべつ牛を贅沢に使用した大人気の一品が「あらま味噌ラーメン」だ。

「あらま味噌ラーメン」は一杯1,020円（税込）。

麺は1.5玉、野菜も大盛りで、サイコロ状のいま

べつ牛が贅沢にゴロゴロと乗せられていてこのコストパフォーマンスは驚きだ。コシのある中太麺が、いまべつ牛と野菜の旨味が溶けだした濃厚な味噌スープに絡む至極の一品。サイコロ状の肉はカレーやシチューに用いられる部位をホロホロになるまで煮込んだもので、ほんの少し噛んだだけでいまべつ牛の旨味がふわ〜っと広がり、あまりの柔らかさに頬が緩む。シャキシャキの触感が

残された炒め野菜と大判の豚チャーシューも名脇役としていい仕事をしている。

「A5ランク牛とラーメン」という組み合わせはなんと贅沢だが、一度食べたら「この組み合わせこそ最強」となること請け合いだ。いまべつ牛の最強ラーメン。それを食べるためだけに今別町まで足を運ぶ価値はある。

店名：レストラン驛（えき）「あらま味噌ラーメン」

住所：今別町大川平字清川187-16 道の駅いまべつ半島ぐらざアスクール内（電話）0174-31-5200

営業：11：00～16：00

定休：なし（臨時休業あり）

記事提供：J A 青森



みりよく発信

購買者の目を引く 子牛生産を目指して 十和田市指久保 久保 宏行さん



牛が可愛いと笑顔を見せる真篤くんと宏行さん
(2月19日、青森県十和田市にて)

十和田市指久保の久保宏行さん(35)は、両親と祖父の親子3代で黒毛和種の親牛と子牛を育てる。今春、小学校に入学した真篤くん(6)もまた「将来は牛飼いになりたい」と夢を持つ。牛舎で手伝う真篤くんの姿に目を細め、「購買者の目を引く子牛生産」を目指し、日々精進する。

北海道の酪農学園大学を卒業後、実家に戻り就農して14年。祖父が短角牛の生産から始め、宏行さんは牛飼いとして3代目になる。就農当初、父から子牛1頭を購入し、現在、自分名義の子牛と育成牛は合わせて10頭になる。自分名義にすることで、育てる責任と、エサ代などのコスト面も把握し、経営者としての腕を磨く。

父と祖父は黒毛和種の各種品評会で数々の功績を残すなど、牛生産に定評がある。2人のもとで、宏行さんは小学生の頃から牛の世話を手伝うのが日課だった。それでも両親からは「継いでほしいと言われなかった。強制的であれば、継がなかったかな」と振り返る。

長男の真篤くんもまた、宏行さんが幼かったころと同じように休日には真っ先に牛舎へ。周辺の雪かきやもみ殻の搬入などを手伝う。真篤くんは「品評会や共進会で、牛を引っ張ってみたい」と声を弾ませる。

宏行さんの祖父は「言葉で指導」、父は「見て覚えろ」と対照的なタイプ。早朝から夕方まで続く作業のなか「2人の師匠が違う角度から牛を見てくれて心強い。今後は、お金をかけずに牛舎を建てて作業の効率化を図り、増頭したい」と思いを強くする。(日本農業新聞：青森県版4月8日掲載)

後編 記集

東京、大阪、京都、兵庫の4都府県に緊急事態宣言が発令された。4月25日～5月11日までで政府による宣言発令は3回目となる、とのニュースが流れた。変異型のウィルスの割合がこのところ増加しており、今まで以上に警戒が必要だ。

それにしてもワクチンの接種が一行に進まない中、世界で最も接種率が高いイスラエルの接種率はなんと62.4%、第2位のイギリス、第3位の米国でも40%を超えた中、日本は先進国の中で最下位の1.2%と報道されている。一体いつになったら、順番がくるのやら。接種が進まない要因を分

析し、接種が進んでいる国の取組みを参考に対応してほしいと思う。

イスラエルでは、マスクのいらない日常生活に戻っているようで誠にうらやましい限りだ。

今日は自分の誕生日でこの原稿を書いているのも何か不思議な感じだが、今年は結婚して30年目でどこかに旅行したい気持ちもあるが、この状況だととても無理。でも、パスポートの有効期限が切れる2027年までには、よしいくぞー(吉幾三！)。

夫婦円満の秘訣は「自分が悪くなくても、自分から率先してあやまること」、これに尽きる！既婚の男性は実践してね。(公)



ホームページアドレス

- JA青森中央会 <http://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧いただけます。
- JAバンク青森 <http://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシュミレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧いただけます。
- JA全農あもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <http://www.jakyosai-aomori.jp>
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。

伝えたい人に、 伝える、伝わる。

JAグループの広報・PRは日本農業新聞の広告で。



広告媒体

日本農業新聞



全国のJAなどが出資し、農業の専門紙では唯一の日報として全国31万部発行※しています。農家組合員とJAグループ、地域をつなぐ全国メディアです。



※日本ABC協会認定
2020年1～6月平均販売部数

日本農業新聞Web



農業関係のWebメディアの世界でも有数のページビューがあり、(2020年度月間平均PV数100万)、農業関係者だけでなく、幅広いユーザーに閲覧されています。記事を配信しているYahoo!ニュースからも、多くのユーザーが流入しています。

フレマルシェ



JAのファーマーズマーケットを中心に全国で25万部を配布するフリーマガジンです。食や農業に関する多様なコンテンツを掲載。食に関心の高い30～60代の女性などの消費者がメイン読者です。

お問い合わせは、日本農業新聞広告部

【Eメール】 koukoku@agrinews.co.jp 【TEL】 03-6281-5810



THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞

わたしのミカタ

"Ienohikari"

家の光

コロナで外出ができないので『家の光』をしっかり読んでいます。知らなかったことがいっぱいです

毎号興味のある特集が掲載され、読むほどに新発見があり楽しく学べます

本誌記事と関連した動画をYouTubeで配信。5月号からは読者限定動画も！ 誌面の2次元コードを読み取ってご覧ください。

家の光	定価(税込)
普通月号	629円
付録月号(1・4・5・7・9月号)	922円
付録月号(家計簿付き12月号)	1,027円

お申し込みはお近くのJA本・支店(所)へ

JAグループ 家の光協会 〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL 03-3266-9039 <http://www.ienohikari.net>



つがるロマン
TSUGARU ROMAN



青天の霹靂
SEITEN NO HEKIREKI



まっしぐら
MASSHIGURA

青森から3つの「美味しい!!」

青森米本部
aomori-komehonbu.gr.jp



© やなせたかし

にしたんクリニック
新型コロナウイルス
PCR検査 自費検査

誰でも簡単 診療不要

9,000~15,000円〜検査
検査結果 当日 郵送でOK
検査時間 10分〜20分
検査場所 市内各所

新型コロナウイルス PCR 検査
一般検査費用(自費検査) ※検査結果 郵送 即日 郵送でOK

検査項目	検査費用	検査結果
一般検査	9,000円〜15,000円	当日 郵送でOK
PCR検査	30,000円〜40,000円	当日 郵送でOK

検査結果 当日 郵送でOK
検査時間 10分〜20分
検査場所 市内各所

検査結果 当日 郵送でOK
検査時間 10分〜20分
検査場所 市内各所

ICheck

1日でも早く、
安心して会える日のために。

自宅でもできる新型コロナウイルス抗原検査

新型コロナウイルス抗原検査
検査費用 4,400円
検査結果 当日 郵送でOK

ICheck（抗原検査キット）をご利用後、医療機関のサポートが受けられます。
検査キットは特別な検査機器を使わずに自宅で15分ほどと
短時間で簡単に検査ができるというメリットがあります。

この他、感染対策用品を多数とりそろえております!!

お問い合わせ・
お申込み



(一社)日本旅行業協会正会員 観光庁長官登録旅行業第939号
株式会社 農協観光 青森支店
〒030-0847 青森市東大野二丁目1-15
総合旅行業務取扱管理者：伊藤 亨・田川ますみ
TEL 017-729-8800
FAX 017-729-8803

お申込み・
お問い合わせは

青森県知事登録旅行業者代理業第26号
JA ゆうき青森旅行センター
☎0175-72-1433
総合旅行業務取扱管理者／八重樫泰浩

作品紹介

●令和2年度 「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール（図画部門）



■優秀賞（図画部門第一部）
「たうえをてつだったよ」

八戸市立是川小学校
1年 中居 凜鳳



■優秀賞（図画部門第一部）
「おにぎりだいすきー」

五所川原市立三輪小学校
1年 荒関 えん